エゾマツ

平山にて
ニセカウシの雪渓

2009年秋季号 90

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目　　次

ヘビの話　　会長　田村　允郁

1　自然観察会、富良野研修会の報告
①三角山　自然観察会に参加して　　札幌市　志鎌　睦
②7月１２日の芸術の森　周辺観察会に参加して　　札幌市　田中幸生・勝江
③小樽支部　軍用道路自然観察会に参加して　　札幌市　菅　美紀子
・小樽支部　資料
④富良野研修会　　札幌市　宮野　慶恵
⑤下支え「小鳩政権」２５％カット支援のボラ・レン　札幌市　浅見　文貴
⑥ウトナイ湖の野鳥　資料　　札幌市　道場　優

2　オオハンゴウソウ防除について　　事務局長
①オオハンゴウソウ防除---これからも継続して取り組もう　　春日　順雄
②オオハンゴウソウ防除作業に参加して　　札幌市　安倍　隆
・オオハンゴウソウ生息範囲　資料

3　オホーツク支部研修会
①オホーツク支部研修会に参加して　　事務局長　春日　順雄
②平成２１年度秋季研修会に参加して　　札幌市　畑中　悠二
＜オホーツク支部機関誌から転載＞「流氷」（１０号）
③歳月は人を待たず　　丸瀬布町　佐野　亮二
④最近の抗老化事情　　遠軽町　小栗　法韶
⑤屋久島を訪ねて　　網走市　法師人春輝

4　連載
森と川と海　　苫小牧市　谷口勇五郎

5　育成研修会、役員会など
①ボラレン育成研のぞいてみてある記　　札幌市　吉田　政徳
②第二回　役員会
③自然観察会のご案内

＊＊まんなかに写真　門村さん撮影のコウノトリと富良野での研修会
編集後記

ヘビの話

会長　田村允郁

今年は随分とヘビに出くわしました。観察会の折り、アオダイショウが散策路の前方をゆっくり横切ったり、また夏の暑い日に樹木の枝にだらりと伸びているアオダイショウに一瞬たじろいだりしました。赤井川村を流れる余市川に渓流釣りに行った時、河原にいたシマヘビを竿でつついたら、鎌首を立て向かってきて慌てたこともありました。

以外と多くの人たちがヘビに対する嫌悪感や恐怖心を抱いていることにはいろいろな説明がなされています。

名古屋大で行った実験です。一度もヘビを見たことのないニホンザル３頭を使った花の写真とヘビの写真を選ばせる実験で、花を選ぶよりヘビを認識するスピードが早いとの結果を得たそうです。こんなことから、木の上で生活する動物にとってヘビは天敵であり、人類も進化の過程でヘビに種の保存を脅かされた体験が脈々とＤＮＡに受け継がれ本能的なものとなった可能性が高いとの結論を導きだしています。

ヘビに対する嫌悪感を以外と多くの人たちが持っている反面、ヘビは知恵の象徴となったり、医療関係の紋章になったりしています。先日、眼の検査と治療に札幌医大病院に行ってきました。外来受付を済ませもらったプラスチック製の診察券をなにげなく見ると羽のついた棒状のものにヘビが巻き付いている紋様が目につきました。札幌医大をネットで調べてみましたがその情報はなく、多分札幌医大のマークなのかも知れません。

西洋や中近東では医療機関や救急車にヘビが巻き付いた紋様を目にするといいます。これは「アスクレピオスの杖」というそうです。

ギリシャ神話では、アスクレピオスは太陽神アポロンとテッサリア王女で湖の妖精コロニスとの間の子でした。しかしコロニスが人間と密会していたことがわかり殺されてしまいますが、お腹の中からうまれたのがアスクレピオスです。その後、半人馬ケンタウロス族の賢人ケイロンに預けられ、ケイロンから医術を学び人間を救う術を覚え死者を蘇らせました。しかし冥王ハデスがこれに怒り、アスクレピオスは殺され星座となりました。この星座がヘビつかい座です。

このようなことから古代ギリシャではヘビは健康のシンボルと考えられ、アスクレピオスは医学と治療の神として、またヘビがからみついた杖をアドウケウスと呼び医療機関のシンボルとなったという経緯があります。

このようなヘビにまつわるエピソードを知ると、単に忌み嫌うことばかりでなく、自然の中で出くわした時しっかりと観察する気になってきました。

雪の季節を前にしてヘビの探索や観察は今年は無理としても来シーズンの観察のテーマになりそうです。

〔参　考〕

北海道に生息するヘビは次の５種と言われています。

・アオダイショウ

山地や森林、平地から人家まで広い範囲に生息。５～６月に交尾、４～17卵を産卵。大きな卵を少数産卵するタイプと小さな卵を多数産卵するタイプがあります。

・シマヘビ

水辺などカエルがいるところに多く見られるが草原や林内でも見られる。体色は黄褐色から褐色で４本の明瞭な縦条線が特徴。このほか目が赤褐色が特徴でアオダイショウと見分けられます。変異個体として、真っ黒な「カラスヘビ」と呼ばれる個体もいます。

・ジムグリ

地中性ではありませんが、よく穴に潜るのでこの名がついた。シマヘビとは正反対で非常におとなしい。

・ニホンマムシ

頭は三角形に近い形をしていて、ご存じ毒ヘビ。卵胎生で８～９月に交尾をし、翌年の８～９月に産仔します。

・シロマダラ

北海道では個体数が少なく、まぼろしのヘビと言われ、札幌近郊や奥尻島でしか確認されていなせん。

希少生物調査　報告

石狩地域森林環境保全ふれあいセンターの依頼を受け今年４月から６月にかけ６回実施された調査に、１９名が登録していただき、延べ７５名による調査活動がおこなわれました。調査の性格上、結果を会員の皆様に公表できませんが、ふれあいセンターから協力に対する感謝の言葉をいただきました。

調査データは野幌森林公園の保全や整備に活用していくとのことです。希少生物調査が所期の成果をあげ終了しましたことを報告いたします。

三角山自然観察会に参加して(平成21年5月31日)

石狩地域森林環境保全ふれあいセンター
志鎌　睦

私は、札幌市の西区の住人なので、毎日、三角山を眺め、四季の移り変わりを楽しんでおります。

今回、北海道ボランティア・レンジャー協議会が、三角山自然観察会を計画されていると知り、三角山の新たな魅力を教えてもらえると考え、是非参加させて頂きたいと思いました。

当日はあいにくの雨模様。それでも、実施しますとのこと。さすが力強い！

雨の中でしたが、案内役の菅さんをはじめスタッフの方々から、植物について詳しく説明を頂き、めずらしい植物やカタツムリの生態などを教えていただいたほか、外来種をこの山に持ち込むことのデメリットや四季を通じて植物がどのように変化するかなど興味も知識も一気に広がるような気持ちになりました。

あんまり楽しかったので2週間後に観察会と同じコースを歩いてみました。

見つけられた植物は観察会の3分の1ぐらいでしょうか。見つけたときの感動はあの日の5分の1ぐらいでしょうか。ヤッパリ感動は共有したいと思いました。

一人歩きは残念な点もありましたが、季節の変化に伴って変わってゆくと説明を受けた草木の様子を、自分の目で確認できたことは喜びでした。

観察会の中で、花が咲く時期だけでなく実をつけるまで、さらにその後の植物の変化を説明していただき、それを楽しみにしている人がいることをこのような気楽な集まりで教えてもらうことによって自然との接し方がより深まりました。このような観察会が各地で行われていることを考えると、この波及効果は相当なものなのではと思われます。

ここで、私と北海道ボランティア・レンジャー協議会の関わりをお

話しさせてください。

私の勤務する石狩地域森林環境保全ふれあいセンターでは、平成16年の台風で被害を受けた野幌の森林を「100年前の原始性が感じられる森林」に再生する取り組みを行っております。その取り組みの柱に「風に強い森づくり」掲げておりますが、間伐が遅れ気味な箇所もあります。間伐は、これまで実施の度に公園利用者との間で軋轢を生じたこともあり、慎重な検討が必要と考えております。

今回の間伐の実施に向けては、現状を的確に把握することが重要と考え、現状の調査を計画しました。そうはいっても数十ヘクタールと広大な面積です。

初めての試みなので、調査の方法などについて外部の方にご意見やアドバイスを求めたところを、知識だけではなくモラルも求められる調査だと複数の方から助言をいただき、「北海道ボランティア・レンジャー協議会ならば」との推薦をいただきました。

早速、「北海道ボランティア・レンジャー協議会」の役員の方々にご相談したところ、調査に協力していただけるとのお返事をいただき、4 月から6回にわたり調査を実施していただきました。おかげさまで広大な区域を詳細に調査することができました。

私も何度か調査に同行し、その知識や人材の豊富さはある程度理解しているつもりでおりましたが、今回の観察会に参加して知識だけでなく、自然への思いを伝える情熱が活動のエネルギーなのではと思いました。多くの方々から信頼される組織であることもなるほどと納得した一日でした。

また、観察会の帰りに「藻岩山よりも植物がたくさん見られるのではないか？」との役員の方の嬉しいお言葉。ひょっとして三角山の観察会の回数が増えるのではと期待しております。

この度の楽しかった観察会の御礼と「北海道ボランティア・レンジャー協議会」のますますのご発展をお祈り申しあげます。

7月12日の芸術の森周辺観察会に参加して

札幌市西区八軒1条西4丁目2-18
琴似住宅618棟44号
田中幸生・勝江

木々は既に緑をまとい、春爛漫の関東（茨城県土浦市）の地から、峰々に雪をいただき、草木はまだ眠っているかのような北海道の大地に、私たちがその一歩を記したのは四月の上旬でした。

朝な夕な歩くことを趣味としていた私たちは、早速住まいの近くを流れる琴似川の川辺のウォーキングを楽しんでおりました。5月、6月と時の経過とともに、山々の木立が緑に変わり、草花が芽吹き、花実をつける頃になると、北海道のスケールの壮大さに感嘆するばかりでした。

ある日、円山公園まで足を伸ばし、原生林の中の遊歩道の散策を楽しんでおりましたが、この大自然の中、ただ歩くだけではもったいない、木々や、草花たちと友達になれば、もっともっと、歩くことがエンジョイできて、北海道と濃密なふれあいができるのではないかと気づきました。

そんな折、市のあるチラシで、今回の催しを知り、飛び込みで参加させて頂くことになりました。木々や草花と友達になるためには、相手を知ることがその第1歩ですから、今回の観察会との出会いは、私たちにとって、とてもラッキーな出来ごとだったと思います。

会の人たちは、初対面にもかかわらず、丁寧に樹木、草花について教えてくださり感謝するとともに、その博識に感嘆するものでした。

内地とは異なる植物たちに、そこで生き抜く生活の知恵を感じ、これまで日本全国緑はあって当たり前と、気にも留めずにこの歳(アラカン近く)まで生きてきた自分が、本当に恥ずかしいとおもいました。

健康のためにと歩き始めたことが、自然の中での散策の心地よさに気づかされ、そして、もっと木々や植物たちと友達になりたいとの思いに至りましたが、どこまで、名前を覚えることができるのか、不安そのものです。機会がありましたら、また皆さんと御一緒させていただき、少しでもこの北海道を深く理解できればと思っております。

小樽支部　軍事道路自然観察会に参加して

２００９年７月３日
札幌市　　菅　美紀子

札幌支部からは田村会長、成田、菅の３人参加。小樽のボランティアレンジャー４人、一般参加者は４３人で総勢は５０人でした。女性が幾分多いかな？若い方からかなりな歳の方までうれしいことです。

張碓橋旧道分岐のバス亭に９時集合。行程は８キロ、前半は林道、後半は前日小樽支部の方が道づくりをして歩けるようにして下さったとのこと感謝です。いろいろな諸注意も上の空、というのも私は一般参加者のつもりで参加したのに今日は参加者が多いので案内人を頼むと北原会長。その上この観察会の原稿の依頼まで・・・。

天気は曇り、一緒に歩くことになった女性軍はにぎやか、道がよいこともあってとぎれるとこなく話つづけ、私は何を話そうかと頭のなかはぐるぐる。それでもヤマブキショウマ、オニシモツケ、チシマアザミ、アマニュウなど大型の花が見られ、いつものことながら名前を覚えられない談義をワイワイ。ゆるい登りと湿気でけっこう汗が流れてきます。

道端にウツボグサがたくさん見られたので喜んでいました。１０時４０分頃林道の終点に到着。この後適当な場所がないということで早めの昼食。

食後、軍用道路について支部の方からお話がありました。(次ページをご覧ください。)また後半の道作りをして下さった方からこの道はフットパスに整備すればとても良い道になるというお話もありました。なれるといいですね。

いよいよ後半、かなり道悪しです。滑るし、枝は下がっているしたいへんなのですが植物は間近です。前半のものに加え、ベニバナイチヤクソウ、オオヤマフスマ、イチヤクソウ、ウメガサソウ、コクワ、マタタビ、イケマ、エゾスズラン、ミズチドリ？　ツルアジサイ、イワガラミ、エゾアジサイ、ヤマウルシ、ヤマブドウ、オオハナウドの花が咲いていました。トチノキ、ヤマグワ、オニグルミ、シウリザクラ、ツノハシバミの実を間近に見ることができ、また食べられるか談義になりました。なんと言ったらいいのか毎回悩みます。

ミヤマエンレソウ、クルマバソウ、サンカヨウ、マイヅルソウ、ヒトリシズカ、ルイヨウショウマ、ノビネチドリも実をつけていました。

後半の道には〒のマークが付いた建造物が２kmごと２か所、この時代は２kmが電波を送る限界だったそうです。電信柱も何か所かありました。軍事道路に電話ケーブル、その上旧国鉄の連絡用電話線の柱と、今では使われなくなり草が生い茂っていましたが考え深いものがありました。

軍事道路自然観察会資料

「軍事道路沿いに存在する謎の建造物の正体について」吉沢逸雄氏作成資料をコピー

北海道ボランティアレンジャー協議会
小 樽 支 部 T 0134－27－1701
'09.7. 3

石倉山の山腹を走る軍事道路を辿ると、山中にしては不釣合いな建造物2件が現れます。張碓町と新光町にあり、両者を隔てる距離は約2Km、いずれも妻壁に「〒」マークをつけたコンクリート製の立派な建物です。一体「何時、誰が、何の為に」造ったのでしょうか、また、軍事道路とはどんな関係があるのでしょうか？ 不思議な建造物です。今回、そんな疑問を一挙に解決する資料『北海道電気通信線路史』（NTT北海道）に運よく出合いました。資料には、建造物や関連施設の詳しい工事記録が残っていたのです。

同資料によると、市内電話から市外電話への発展途上にあった大正末から昭和初期、北海道では、函館から小沢、小樽、札幌、岩見沢へと次々とケーブル化が進みました。ところが、ケーブルでは伝送能力の減衰が避けがたく、それを良くする（装荷という）装置が必要です。その装置を「装荷線輪」と呼びましたが、謎の建造物はこれを収納する為の建物だったのです。かくして、逓信省による札樽間の電話ケーブルは昭和5年3月に開通します。軍事道路の開通から25年後のことでした。

ケーブルの証拠は、軍事道路沿いに幾つか見つかっています。建造物内の設備、直ぐ近くで見つかった標柱（ケーブル埋設の位置を示す）、そして、いまでも銭函川に残っている「吊線式専用橋」などです。このケーブル線路は昭和39年頃に廃止になりますので、その稼動期間は約34年ということになります。

軍事道路沿いには、電話ケーブルとは関係の無い電信柱が5～6本残っています。それに付随する番号札から、電信柱は旧国鉄の連絡用電話線の柱で、その設置は大正6年であると分かります。また、電信柱の根元に散乱する碍子（メーカー名と製造年が印字）から判断すると、この電信線路は最短でも昭和24年まで稼動していたと推定され、事実、小樽保線区発刊の『区史：開区50周年記念誌』によれば、その閉鎖は昭和42年で、函館本線（札樽間）の電化事業が終了した年です。旧国鉄の電信線は50年間の使用に耐えてきたことになります。

では、何故、2つの電信線路がわざわざ険しい山中に造られたのでしょうか？ 理由は幾つか考えられます。当時、小樽・銭函間の道らしい道といえば、鉄道と併用の海岸通りの道と軍事道路です。前者は崖崩れ、天候の影響などを受けやすく保守・管理が難しかったと考えられます。電信線の新設には莫大な費用が必要でしたから、そこで軍事道路に目がつけられたのでしょう。既設の道路沿いを利用すれば、大変安上がりとなるからです。

軍事道路の開削（明治38年）後、旧国鉄の電話線路は半世紀、また逓信省による電話ケーブル線は30数年間、共に軍事道路沿いにあって、その役割を果たしました。当時の小樽は商業都市として発展途上にあり、交通や通信面などのインフラの整備が急がれておりました。小樽の産業発展の為に、軍事道路が側面から貢献した姿が浮かび上がってきます。以下のスライドを用いてご報告致します。

富良野研修会

8月22日・23日

「ボランティア．レンジャー」の名に引き寄せられ、昨年の育成研修会よりメンバーの一員となり、野幌、西岡、芸術の森と参加をして、今回富良野研修会へ。

目粉しく変わる天気の中、２２日　　TVドラマ「風のガーデン」で、使用した庭と施設を見学、色とりどりの花、ハーブ、野草と楽しませてくれる庭でした。

森林の中、ポツンとあるイメージをしていた為、パークゴルフ場の中を車に乗って行くとは思ってもいませんでした。

帰り道は芝の中を歩き、気持ちはとっても良いのですが、これだけ広大な森林、野草、野花を伐採してしまったのか、植林、自然再生、環境活動をしている〇〇自然塾に反していないの？小鹿が人目を気にせず、カサブランカの花を食べている。
観光、町の活性化には必要なのかなぁと…

その後、原始が原、ニングルの森管理棟を目指して移動。山小屋は、新しく想像から掛離れていて畳があり気持ちよく、薪ストーブの明かりと、バッテリー&電球を運んで頂いた先輩のおかげで、明るい室内でジンギスカンの大宴会、感謝です。
沢山の話しを聞き、山小屋の夜が更けていきました。

２３日は、いよいよ原始が原へ。林間コース（滝コースは落石危険）の登山道には、ネジリバナ、オオバタケシマラン、アキノギンリョウソウ、オニルリソウ、トラノオ、イチヤクソウ、ツルリンドウ、エゾノスズラン、ウツボクサ、ヨツバヒヨドリ、シラタマノキ、数種類のシダ等々、原始が原の山頂は、突然の雨とガス、湿原のなんとも言えないガスの中の風景、その中にキンスゲそしてサワラン、ウメバチソウ、モウセンゴケ、滝にはダイモンジソウと、先輩の方々の飛び交う花・木の名前を必死にメモを取り落ち着いて見ると歩きながら書いた為、自分でも読めず残念な思いをした花々の名前えを記憶の薄れない内に調べなければと、これも参加して一つの大きな勉強になりました。
何気なく道端に咲く花、草、木々を注意深く見て行き観察会に参加したいと思います。

札幌市　　宮野　慶恵

投稿　下支え「小鳩政権」２５％カット支援のボラ・レン

札幌市　浅見　文貴

時折り秋雨パラつく空模様であった。雨具の用意が極端に少なかった我がグループのメンバー（ご婦人６人＝うち１人がガイド、男性２人＝うち１人ガイド）は、降る雨にめげることなく健闘した。予定された６・５キロの全行程を、平均年令が超ハイにもかかわらず、案内人を質問攻めするほど、熱意あふれる学習意欲で乗り切った。一部顔見知り参加を除くとほとんどが個人参加が大勢。

１０月 15 日、木曜日のウイークデーにもかかわらず、野幌自然公園にある森人が構成する「自然交流館」主催の“秋の森の匂いをかぐ”のイベントにたくさんの自然愛好家たちが集まった。その数およそ１００人近く。

午前１０時１５分、北海道の開拓史を展示し、なおかつ仔細に解説する開拓村を出発した。各班に分かれた参加者を案内するのは、ボラ・レン、すなわちボランティア・レンジャー協議会は道などが主催する「ボランティア・レンジャー育成研修」を受講し修了した専門員だった。自然に対する豊富な知識と知恵を具備したエキスパートの集団。今回もまた参加者を退屈させなかったはずである。(我がグループは非のうちどこなし)。

伊藤秀平さん―。私は昨年のこの欄でも、本人に断りなしで登場いただいた自然観察のベテラン（以下伊藤指導員）だが、今回もまた偶然にして、めぐり合う幸せを得て至福の“極感”

「あっ、コクワだ。おう向十年もたべていない」。参加者の１人が叫んだ。すかさず伊藤指導員、「おっ、あった」、地面に垂れ下がった枝葉からひと粒のコクワに触れた。しかしその塗炭、実は生い繁る草ムラに熟落（じゅらく）してしまった。「もう少し青いちにたべたかった。ちょっと甘味が足りないかな」。伊藤指導員も捜し当てたコクワの実をいただく、そのまま食した、もう８０歳に手が届きそうな自然愛好家のご婦人。周囲の目もはばからず、自然の恵みにカジリついた。まるでかっての昔日を取り戻すが如く輝いていた。

自然の人間が自然の大原始林、あるいは大草原、そして自身が自然であることを認識し、その想いを自然保護に結びつけていく行動が地球すくう大前提となる。

初めてナチュラル・ツアーで対面した彼女は言った。「このあいだ、札幌市内にある滝を観光しました。若い時に見た滝はそんなに大きいと思いませんでした。でも、年をとって再び接した滝は雄大で素晴らしかった。やはり年老いたということですかね。貴重なこの景観、自然を汚すことなく後世にキチンと残していきたいです」。年老いて益々自然保護の想いが突きあげてきたのだろう。

ボラ・レンの活動は、いうまでもなく自然環境の保全に根ざす各種の啓蒙キャンペーンの実施であり、地球温暖化にブレーキかける運動の先頭に立つ民間組織。ス

タートしてもう２３年にもなる。

緊縮財政の名の下に道庁直轄運営から外され、独自の道を歩まざるを得なくなった「自然ふれあい交流館」とのタグマッチで行われた今回の“匂う森の秋探し”は、政権交代で中央折衝にあたふた、醜態さらす、おはること高橋はるみ知事に対して、いま一度再考を促す現状認識を願いたい。

既得権者や受益者が自民党政治から民主党にチエンジした今、当然ながら大きく変わりつつある分けだがら、自然保護への思いやり予算の増額に勇断を振ってはどうか。

温室効果ガスの排出量２５％カットを国際宣言した「小・鳩政権」（小沢・鳩山政権）の過大数値を見るまでもなく、その一端でも担う気配りが肝要であろう。ついでに言えば、地球温暖化について IPCC（気候変動に関する政府間パネル）がこのほどまとめた第４次評価報告書によると、加速中の温暖化は２１世紀末で世界平均気温に換算すると、２０世紀末に比べて６・４度上昇するそうだ。

となると、干ばつ、大雨、台風、地震の異常気象で世界の食糧事情はますます深刻化する。以下は今年の数字だが、世界人口６６億万人のうち、１０億２０００万人が飢えに苦しむ飢餓人口（国連農業機関＝FAO＝の調べ）だそうだ。

ともあれ、秋の匂いをかぐステージとなった野幌の大自然公園、まばら秋雨の中、落葉ふみしめる観察散歩は、五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚　）を満喫するほぼ５時間の匂い探し。

氷河期を生き延びてきたふたつの植物、イチョウとメタセコイア、この存在を伊藤秀平指導員から学び、あらためて生態系を変えてしまう地球温暖化の厚く大きな壁を突き破るエネルギーを人類はイチョウとメタセコイアに。

（２１年１０月１５日　浅見）

＃＃　アメリカに環境視察に行った「エゾマツ」君に聞いてもらうことにしました。
双方とも語学力が十分でないので４つの単語で。

エ　Ｅｎｖｉｒｏｍｅｎｔ（環境はどうなっているの）
ゾ　Ｚｏｎｅ（地域によっても違うの）
マ　Ｍａｎｉｐｕｌａｔｉｏｎ（ごまかしが多いと聞いているが）
ツ　Ｔｒｕｔｈ（真実は）　ゴア「不都合な真実」を想起して
オバマ政権成立以前の会話から

ウトナイ湖の野鳥

北海道ボランティア・レンジャー協議会探鳥会資料

道場　優

☆留　鳥（一年中このあたりに棲んでいる鳥）

トビ、オジロワシ、ハイタカ、ハヤブサ、エゾライチョウ、オオセグロカモメ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ヒガラ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなど

☆夏　鳥（春から夏にかけてみられる渡り鳥）

カイツブリ、アオサギ、コブハクチョウ、チュウヒ、コチドリ、ヤマシギ、イソシギ、オオジシギ、ウミネコ、キジバト、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、ビンズイ、モズ、ノビタキ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、アオジ、オオジュリン、ベニマシコ、ニュウナイスズメなど

☆冬　鳥（冬の間に見られる渡り鳥）

ヒシクイ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、コオリガモ、ミコアイサ、カワアイサ、オオワシ、ハイイロチュウヒ、セグロカモメ、シロカモメ、ツグミ、アトリ、マヒワ、ウソなど

☆旅　鳥（春と秋の渡りの時期に見られる渡り鳥）

カンムリカイツブリ、ダイサギ、マガン、コハクチョウ、ユリカモメ、オミウなど

☆迷　鳥（めったに見られない渡り鳥）

アメリカヒドリ、ヤツガシラ、ハクガン、カリガネ、シジュウガラガンなど

（参考資料:ウトナイ湖野生保護センター）

◎水鳥の見分け方（淡水ガモと潜水ガモ）

☆一番簡単な見分け方は、水に浮いているときに、尾が水面の下にあるか、上にあるか。

○淡水ガモ（水面給餌ガモ）・・・・オナガガモやハシビロガモ、マガモ、オシドリなど

川や池で生活する。淡水にやって来るものも多い。潜水ガモと違って潜水は苦手で、水面に浮いている餌（草の種など）を泳ぎながらくちばしで漉しとって食べたり、水面近くの水草などを逆立ちして食べる。尾は水面より上。

○潜水ガモ（海ガモ）・・・・・キンクロハジロやホシハジロなど

海上を主な生活の場にしている。潜水が上手で、水中に潜って貝などの餌を採る。

体重が重いので尾が水に浸かっている。

10月3日ウトナイ湖湖畔で会員研修のための観察会を行いました。新たに会員になられた道場さんと、オールラウンドの宮本さんに案内をお願いいたしました天候に恵まれなかった今夏でしたが、マユミ、ズミ、ツルウメモドキはたわわに実をつけていました。

早くも北の国からヒシクイ、マガン、オナガガモ、オオハクチョウなどカモの仲間たちが南への旅に備えて燃料補給をしていました。静かな湖畔が喧噪の場に変わるのはもう直です。　（記・三崎）

ウトナイ湖「冬の野鳥」発見チェック表

★印は、ここでよく見られる鳥

鳥の名前	目立つ特徴	発見
（雁の仲間）		
マガン　★	オレンジの嘴、腹の黒い縞	
ヒシクイ　★	嘴が黒く先が黄色	
オオヒシクイ★	大きい。嘴が黒く先が黄色	
（白鳥の仲間）		
オオハクチョウ★	嘴の黄色が大きい	
コハクチョウ	小さい。嘴の黄色が丸い	
コブハクチョウ★	嘴の上に黒いコブ。嘴はピンク	
（鴨の仲間）		
カルガモ　★	目の上白い横線。嘴先が黄色	
マガモ　★♂	頭が緑。黄色の嘴。尾はカール	
オナガガモ★　♂	長い尾。胸と首の帯は白い	
コガモ　★　♂	頭は栗色と緑。胴体は横向き白線	
ヒドリガモ★♂	赤茶の頭。額は黄色。嘴は鉛色	
ハシビロガモ　♂	嘴長く先が広い。胸白く、腹茶色	
キンクロハジロ★♂	白黒の鳥。冠羽がある	
ヨシガモ　★♂	栗色と緑の頭。尾は長い鬣状	
ホオジロガモ　♂	口元に白斑。体は白。頭三角形	
ホシハジロ★♂	頭は赤茶。嘴の根元と先は黒い	
スズガモ　♂	頭は黒。背が灰色。	
（その他の水鳥）		
カイツブリ	頭の上黒色。頬は茶。	
カワアイサ★♂	頭は緑黒色。胸は白。嘴が赤	
ミコアイサ　♂	白い体。目の回りは黒くパンダ	
（水辺の鳥）		
アオサギ　★	背中・胸は青灰色。頭は白	
ダイサギ　★	全身は白。嘴は夏は黒、冬は黄色	
カモメ　★	背は淡い青灰色。尾は白。脚は黄	

鳥の名前	目立つ特徴	発見
ウミネコ　★	背は黒灰色。飛ぶと尾に黒。脚は黄	
オオセグロカモメ	背は黒灰色。尾は白。脚は赤	
セグロカモメ　★	背は淡い青灰色。尾は白。脚は赤	
ユリカモメ	頭夏は黒、冬は白。嘴は赤。脚は赤	
（湖周辺にいる主な鳥たち）		
トビ　★	尾は三角形。翼の下に白斑	
オジロワシ　★	全身褐色。尾は白く菱形。	
オオワシ　★	翼前と尾は白でくさび形	
ハクセキレイ　★	白い顔に黒い線。	
キジバト　★	体は褐色。翼にうろこ模様	
ヒヨドリ　★	体は灰褐色。尾は長い	
ツグミ　★	脇は黒いぽつぽつ。腰と翼は茶色	
シジュウカラ★	胸に黒いネクタイ。額が白い	
ヒガラ　★	頭は黒い冠羽。尾・嘴短い	
ハシブトガラ★	頭は黒いベレー帽。のどは黒い	
ゴジュウカラ★	背は青灰色。腹は白。目に黒い線	
ヤマガラ　★	体は茶褐色。頭は黒	
アオジ　♂	腹は黄緑色。嘴の付け根は黒	
カワラヒワ　★	体は緑褐色。翼に黄色。嘴はピンク	
スズメ　★	頬に黒斑。翼に2本の白帯	
ムクドリ　★	体は黒っぽい。顔に白い模様	
アカゲラ　★	背は黒と白。腹は赤	
コゲラ　★	背は褐色と白の縞模様。	
マヒワ　★	体は黄色。頭と頬は黒	
ウソ　♂	頭は黒。頬は紅色。体は灰色	
シメ	太い嘴。ずんぐり。尾は短い	
イカル	嘴は黄色大きく太い。長い尾	
ハシボソガラス★	嘴は細い。額はでっぱらない	
ハシブトガラス★	嘴は太い。額はでっぱる	

◆ 水鳥　ひとくち知識

◎ エクリプス Eclipse とは？

カモ類のオスは、繁殖期のあとに全身換羽が行われ、その羽色は地味で、メスとよく似ている。この非繁殖期の羽を「エクリプス」と言う。渡来直後はほとんどこれである

オオハンゴンソウ防除～これからも継続して取り組もう

春日　順雄

その日は、曇天の中に朝を迎えました。予報では日中は雨。

こんな天気でも参加者が続々と集まってきました。嬉しいことです。

ボラレン会員19名・石狩地域森林環境保全ふれあいセンター4名・自然ふれあい交流館2名・一般市民11名の合計36名で実施することができました。

一般参加者の活動あざやか～多くの人たちのご協力に感謝

一般市民の方は、作業に適した服装といい、てきぱきした動きといい、頼もしいひとたちでした。一番印象に残ったことは、指示待ち形でないな、ということでした。やることを理解すると、自己判断でオオハンゴンソウを抜いていくのです。根の部分を切断し、茎の部分は積み上げて堆肥化するのですが、その場所の設定なども適切に判断して行っていくのですから驚きです。「作業は、12時10分に切り上げます。」という連絡に、「後、20分か。あそこの木の下までは抜けるぞ。」と、目当てを設定して作業を進めることが出来る人たちでした。いつの間にか、抜く人・堆肥場まで運ぶ人・根を切り取る人・積み上げる人というように作業分担ができていました。

ボラレンは、前日に下見を行ったし、かなり緻密に計画を立て、この場に望みました。しかし、所詮は、机上プランでした。実際場面では、自然発生的に机上プランをしのぐシステム的な人の動きが実現しました。市民の参加者は高齢者とお見受けする方が多かったです。さすがに百戦錬磨の強者たちでした。有り難いことでした。

石狩地域森林環境保全ふれあいセンターからは、剪定バサミを余分に用意して参加して下さいました。作業の終わりに本日の抜根の成果は、9000本と推定。推定の方法は、ゴミ袋一つに入っていた根を数えたら300本でした。ゴミ袋が全部で30だから、30×30＝9000で9000本というのです。さすが手慣れたプロたちです。

ボラレンも自然観察会の案内を通して自然保護思想の普及から、実際に自然保護的なことに直接に関わるということで気負いがありました。ボラレン参加者19名のやる気が感じられる動きであって嬉しいことでした。

切り取った根は焼却処分です。このことに関しては、江別市廃棄物対策課のみなさんにお世話になりました。翌日、自然ふれあい交流館までパッカーで取りに来て下さいました。

長期戦でやりましょう

過日、引き抜いた所に行ってみました。早くもオオハンゴンソウは、沢山の芽を出していました。想定内ではありますが、その生命力の旺盛さに目を見張りました。これは長期戦になると思いました。

今年度は、オオハンゴンソウ防除の出発の年でした。様々な教訓をもとに来年度以降も継続した取り組みを行おうではありませんか。

オオハンゴウソウ防除作業に参加して

札幌市　安倍　隆

７月２６日に野幌森林公園で実施されたオオハンゴウソウ防除作業に参加しました。当日は時折小雨の降る中、市民参加の方を含めて３２名が約９，０００本のオオハンゴンソウの抜根作業に汗を流しました。

５月のセイヨウオオマルハナバチの捕獲作業に続き、特定外来生物の駆除活動を今年は２回も体験することができました。普段のボラレンの活動は、「森の生き物を取ってはいけません！」という立場なので、今回はいつもとは違った雰囲気を感じました。(いつもお見受けする様子とは、みなさんの目つきが違っていましたよ。)かく言う私も狩猟採集民族の血が騒ぐのか、いざ作業をはじめると、時に降り出す雨もなんのその、夢中になって抜き取り作業に没頭していました。

夢中になってオオハンゴンソウを抜き取り、最後にぽっかりと空いた空間を眺めながら、改めて外来生物の問題について考える機会が得られました。

外来生物の問題は、頭ではよく分かっているつもりでした。外来生物は、在来種や生態系へ悪影響を及ぼしたり、農業被害などを引き起こしたり、新たな病気の発生源になることもあると聞いています。また何もせずに放置して、何年も後に根絶を目指すことに比べれば、今対策を講ずる事の方が、命を奪う生き物の数がはるかに少ないことも理解できます。

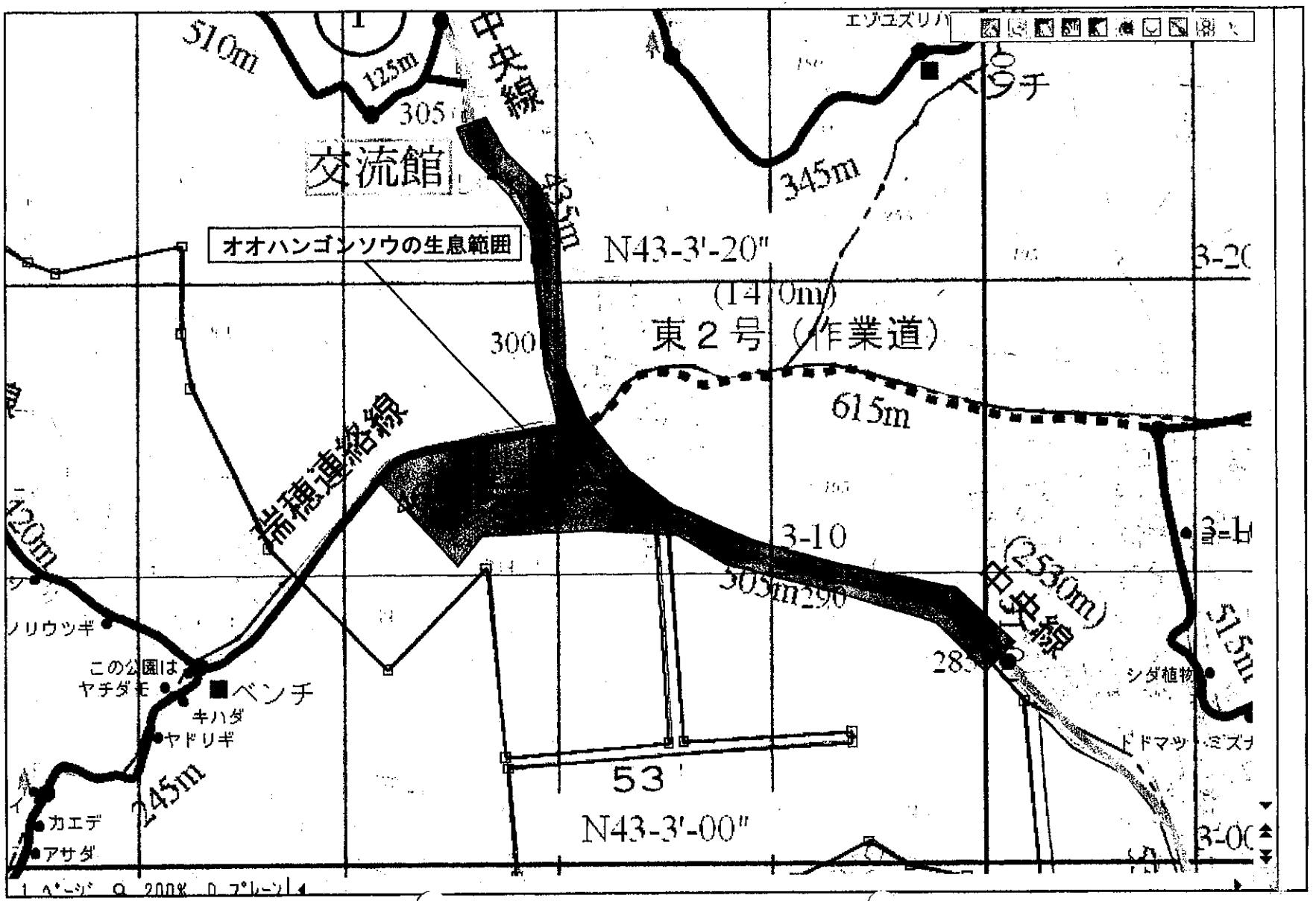
しかし、数ある外来種の中から人間の都合で「特定」を選び、その種だけを悪者のようにして駆除すること、また「多様性を守るために生き物を殺す」ことを良しとすることが、果たして正しいことなのか、今回生き物を殺すことを目的とした体験をすることを通じて、今まで頭では納得していた外来生物問題について、別の観点を得ることができました。

先日、特定外来生物の代表ともいえるアライグマの駆除活動に取り組んでいる方と話をする機会がありました。「外来種の問題は、その時代時代での文化によって判断が異なる。１００年後の日本ではアライグマと共生していて、１００年前にはアライグマの虐殺が行われたと、言われているかもしれない」とおっしゃっていました。しかし今駆除活動を止めたら、いたるところがアライグマだらけになると言う危機感から、悩みながらも精力的に駆除活動を続けられていました。

外来生物の問題は一部の人たちや組織だけで解決できるものではなく、広く市民が詳しい知識と考えを持ち、外来生物に対する文化を醸成させることが重要だと思います。

ボラレンとしては今後も外来生物の駆除活動を通じて、一人でも多くの市民の方々にこの問題について考えてもらう機会をつくっていくべきだと考えます。

最後に、とても有意義な機会を与えてくれた関係者の皆様に感謝申し上げます。


510m
125m
305
中央線
交流館
335m
345m
ベンチ
オオハンゴンソウの生息範囲
N43-3'-20"
(1410m)
東２号（作業道）
300
615m
瑞穂連絡線
420m
3-10
305m290
(2530m)
中央線
515m
ノリウツギ
この公園は
ヤチダモ
ベンチ
キハダ
ヤドリギ
245m
カエデ
アサダ
53
N43-3'-00"

オホーツク支部研修会に参加して

春日　順雄

参加者はオホーツク支部5名、札幌・富良野から12名、合計17名でした。和泉支部長さんはじめオホーツク支部の皆様には大変お世話になりました。お礼を申し上げます。また、収穫の多い研修会でもありました。以下、列記してみます。

1，　広さを克服するオホーツク支部。

会長の和泉さんは北見に、事務局長の法師人さんは網走、佐野さんと小栗さんと大平さんは遠軽にお住まいです。支部役員会はどのように開催されているのかと心配するほど互いの距離が離れています。そんなことを克服しての研修会開催でした。役員間の信頼のかたさを感じました。札幌から参加して、札幌もかなわない信頼関係の強固さを感じました。

2，　社会教育とボラレン会員の信頼関係を感じました。

（1）一日目、昆虫生態館の見学に先立って、町教委の小山さんから説明を聞きました。オオイチモンジの話などがあってとってもよかった。

（2）二日目の山彦の滝観察会にも小山さんが参加して下さいました。小山さんの話はよかったです。オオイチモンジの食草のドロノキ。そこに、食痕があった。いい観察会になりました。

（3）社会教育の一環としての観察会に、佐野さんが案内人として参加しておられます。

◆このように、ボラレン会員の活動が町の社会教育の中に生かされていました。地方にあっては、ボラレンが独自で観察会を実施するには困難が伴うでしょう。特に、人集めは難しいことでありましょう。行政と一体となった活動、互いに補完しあう活動は、いい形だなと、思いました。

◆札幌では、絶対に実現できない姿だと思います。うらやましい限りです。

3，素晴らしい案内人でした。

二日目は、佐野さんの案内で山彦の滝までの観察会がありました。佐野さんから自分はこんな風にして人々を案内していますという形で案内していただきました。観察会は楽しかったし参加者の発言を引き出し、生かしていただいたし、案内人と参加者の双方向の話し合いがあるなど、いい観察会になりました。佐野さんは素晴らしい気風の案内人でした。いい勉強になりました。

3，　素晴らしいフィールドがあって幸せですね

パソコンの映像はよかったです。いい学習会になりました。知床の自然、武利岳の自然など、自然イッパイのオホーツク支部を感じました。

4，　最後にオホーツク支部の皆様に感謝とお詫びを申し上げます。夕食のバーベキューは美味しかったです。でも、少人数の役員ですから、和泉会長さんはじめ、オホーツク支部の役員の皆様には、準備にとんでもない負担をおかけしてしまいました。長続きするためにも簡便化を目指しましょう。そして、参加者も使って下さい。

平成２１年度秋季研修会に参加して(遠軽町丸瀬布上武利)　平成２１年９月１２～１３日

畑　中　悠　二

この度の研修会場は「まるせっぷいこいの森」として四方が山々に囲まれ自然豊でとても気持ちの癒される場所でした。この場所は特に丸瀬布【木材のまち】にふさわしく、当時、森林鉄道が敷設され、木材運搬用として活躍した蒸気機関車が動態保存されて現在、観光用として運行中で、私も童心にかえり乗車してとてもいい思い出になりました。その他、オートキャンプ場、川でヤマベ釣り、丸瀬布温泉、木工芸館、昆虫生態館（丸瀬布は全国でも有名な大一文字蝶の生息地)、郷土資料館、パークゴルフ場、テニスコートなど丸瀬布農村集落多目的施設でアウトドアを楽しむには最適の場所です。

当日の参加者は１７名（札幌１１名、オホーツク支部６名)，昆虫生態館を見学したあと、野外バーベキュー、二次会は宿泊所で宴会、自己紹介、スライド研修（冬の知床，流氷など)。

翌日は山彦の滝を訪ねる研修でした、大一文字蝶が越冬するドロノキを観察し国道から５００ｍ入ったところに高さ２８ｍの滝、途中、草花、樹木観察をしました。

この研修では自然案内役としてのかかわりかたで、「皆さんならどう対応しますか」などの研修でした。地元の会員と当地の情報を教えてもらいながらコミニュニケーションしたことがとても有意義でした。

自然環境を相手に活動する我々にとって気がかりのは気候変動です。大自然の中で人間は本当にちっぽけな存在で、楽しさと共に怖さも感じ、環境を大切にして後世に伝えて行きたいと何時

も考えているのですが，分からないことが多い。そこで、最近の新聞から一部抜粋した環境関連情報を提供しますと～

・　日本の首相は、国連気候変動ハイレベル会議で２０２０年までの温室効果ガス削減の中期目標として「９０年比２５％削減をめざす」ことを表明、それは主要排出国である中国、アメリカ、インド、ロシア、などとしっかりと同じ土俵で議論ができる仕掛けを日本が作って行なければならない。発展途上国などに省エネ技術を提供した分を日本で削減した排出枠に見なし日本の目標達成に算入できる仕組みの利用も検討している。

・　国連事務総長の気候変動サミット寄稿文を抜粋：
国連に世界の指導者約１００人を集め、国家や政府の首脳たちが集う史上最大規模の首脳会合。気候変動は私の時代にとって、開発，平和，繁栄をめぐるグローバルな方程式を書き換えるほど地政学的な問題だ。それは経済を脅かす。
食糧や水の供給を枯渇させたり、紛争や移民を誘発させたり、あるいは脆弱な社会を不安定化させたりする可能性がある。政府さえ転覆させかねない。私達は目先の政治的なご都合主義ではなく、この惑星にとっての長期的な利益を優先しなければならない。すべての国々が、その能力に見合った共通で長期的な目標に取り組む合意でなければ成功とはいえない。すべての国が排出を減らすため最善を尽くし先進国は目標を強化、途上国も貧困から脱出する一環として環境に配慮した成長を加速しなければならない。この瞬間をとらえて、私たちは気候変動に果敢な行動をとらなければならない。

・人とクルマと地球の共存を支えるハイブリットシステム
温暖化を食い止める低炭素社会をどう実現するのかをテーマに，東京で【朝日地球環境フォーラム２００９】開催，各国の識者が

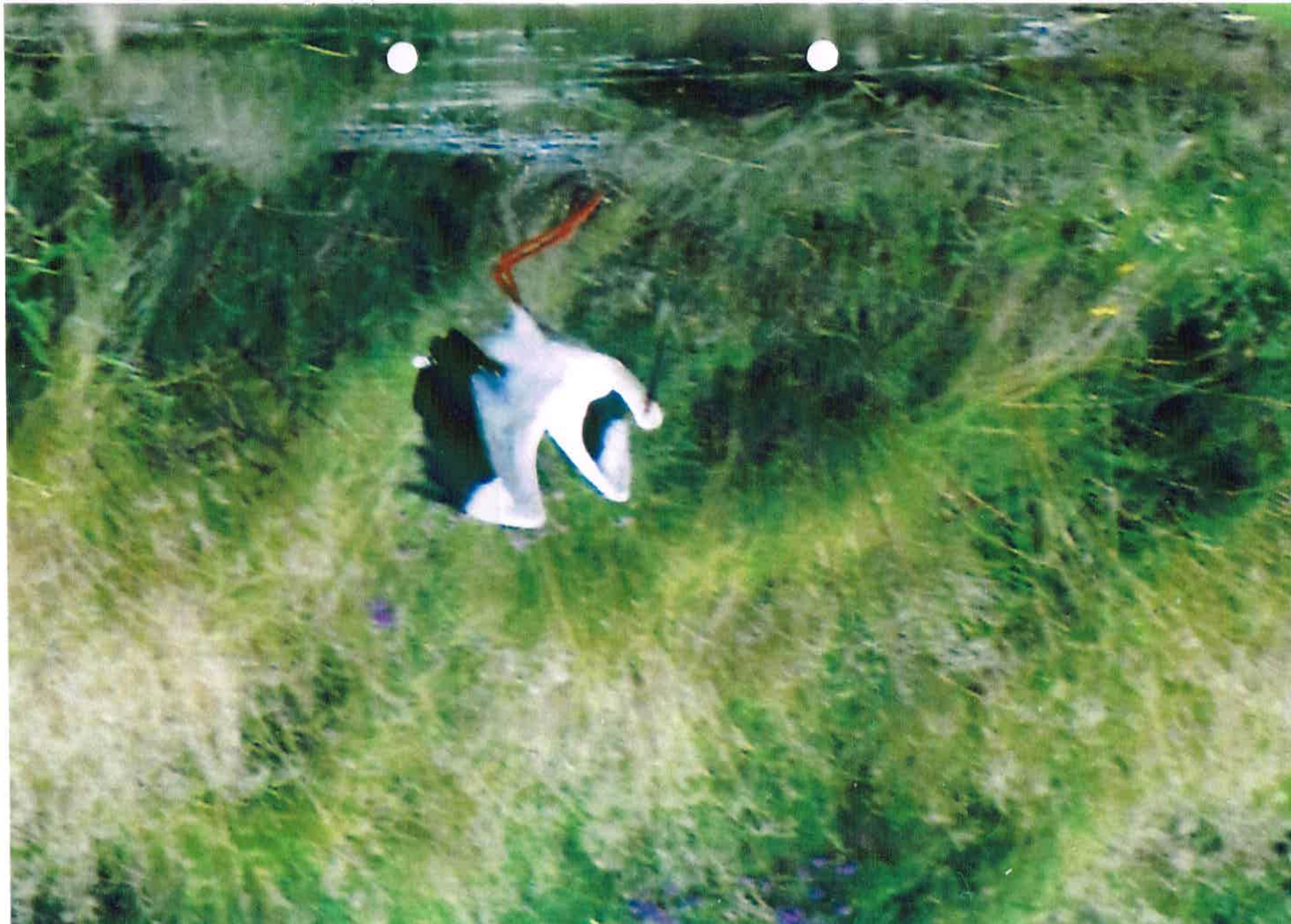
富良野研修会　「原始ヶ原」

2009.8.23 登山口にて

天使の泉

2009.8.23 昇竜の滝

8:07
天使の泉
9:00
9:50
7：22
120
123
124
126
127
129
130
132
133
134
136
139
141
143
144
145
148
不動の滝
昇天の滝
二段の滝
ニングルの管理棟
2009.8.23 ニングルの管理棟
2009.8.23 富良野研修会　北海道ボランティア・レンジャー協議会



展望と解決策を議論した。分科会では【エコ・モビリテイ未来像】人とクルマと地球がどのように共存できるかが討論された。

・温暖化税４年以内に導入；二酸化炭素 CO_2 の排出量などに応じて課税する地球温暖対策税を４年以内に導入～ガソリン税など暫定税率を廃止し、新たに温暖化対策税を創設。

・CO_2 排出量、中国がトップ：２００７年の世界の排出量２９０億トン（前年比３％増），そのうち中国６０億トン（前年比８％増）２０２０年には経済の急成長に伴い石炭火力発電所の発電量が０７年に比べ約５割増でその排出量は４割増と試算されている。アメリカ５８億トン（(前年比１％増)、ロシア３９億トン、インド１６億トン、日本１２億トン（５位)。

これからは地球温暖化を意識しながら自然環境の変化をボランティアレンジャーの一員として考えて行きたいと思います。

＃＃　今年のオホーツク支部の研修会

１２月初旬　旭川医大に検査入院、その後市内の某病院に転院加療中の佐野亮二さんより、原稿を頂きました。１月中旬ころ退院できれば？と有りました。詳細は解りませんが早い回復を願っています。ボラレンの目玉的存在「佐野さん」、頑張ってベットからの寄稿有難うございます　<(_)>

歳月は人を待たず

旭川にて　　佐　野　亮　二

早一年　時の過ぎる速度に付いて行けない我が身、目を白黒させ乍ら病院のベット上で、天井を眺めこの１年を反芻しております。

1～3月まで「極寒の山彦の滝観察会」をサポートしましたが、野鳥担当・昆虫担当の皆さんと３人での案内は、野山は白銀の世界　―　研修話題の提供にも一苦労です。

でも参加者の圧倒的な熱意の中、雪中を動き回る昆虫・木立を飛び回る小鳥・雪上動物のフイルドサインなどなど、冬の営みを感触しました。

さて私担当の植物たち、春遠からじとは言えまだ冬ごもりの最中、声を掛けても野草たちは雪の下、そして樹木は身を固くして寒さに耐え、時折り吹く冬の風　ヒュウー　ヒュウー　鳴るだけで何も答えてはくれません。

日頃の不勉強を特に思い知らされるときです。凍裂痕のトドマツに手を当て、その厳しさを充分語り伝えらたら、どんなに良いだろうなと思います。

そんな山川草木の代弁者・語り部になりたい夢を抱きながらの活動になりました。

ボラレン・オホーック支部が協定サポートしている「遠軽学社融合事業」も６年になりました。「まちの森林博士」として遠軽町内小学生対象に、森林教室・木工教室・登山学校などの機会に、自然環境についての学習を、子供たちに理解を深めて貰おうと努力しているところです。

いま地球の現状は温暖化・大気汚染・環境破壊など、厄介な問題を一杯抱えています。この厳しい現実と将来に向けた自然環境保護など、子供に伝えたいことは山ほど有ります。あれこれと頭の中をよぎりますが、本当に理解して貰うには、何をどのように話せばよいのか悩んでばかりいます。

「遠軽学社融合事業」ではボラレン仲間は勿論、一般参加の森林博士と共に研鑽を重ね、互いの得意分野と持ち味で活躍し、少しでも社会を貢献すべく励んでいます。

９月13～１４日に、ボラレン・オホーック支部恒例の秋期講習会が、西興部村安部愛冶さんのご尽力により「西興部村地域学講座」に自主参加いたしました。

地域住民と酪農学園大学・北大講師の方々がバックアップする、「宮ノ森植物講座」に４

名の参加でしたが、研修の中で帰化植物のオオハンゴンソウの植生域の拡がりと対策など、身近なことが話し合れたり地域学の対象である「宮ノ森地区」の自然環境を、どのように保全していくかと言ったことなどでした。

私たちには少し変わった研修分野で、違った角度から見ることを学ぶ良い機会となりました。

ボラレンとは直接関係はありませんが、森林作りを熱心にされている方々と共に、手入れ不足の町有林・民有林を少しでもよくするために、始めた森林ボランティア活動に参加し、更に林業グループの勉強会にも参加するなど、環境保護と木材生産の両立を目指しています。今は北海道環境税の導入問題が話題になっていますが、伐採跡地の放置・間伐遅れなど、民有林を取り巻く問題が山積している中で、趣味と実益を兼ねた環境保全が出来れば何よりと思いますが、理想と現実のギャップは大き過ぎますね。

これからもボラレンの皆様と交流の中で、一条の光明が見出せればと願っています。ボラレンの皆様今後とも宜しくお付き合い下さいますようお願い申上げます。

平成20年12月21日

最近の抗老化事情

小　栗　法　韶

「生き身は死に身」と言われながらも願いは「不老長寿」とは昔のこと、今は進化を遂げて、「生有るものは死す」の常識を乗り越えて、究極の抗老化「永遠の生命を手に入れようとする」研究が注目されている。その具体的内容として　－　－　－

その１　「強靭なマウスへの若返り実験」染色体に健康と長寿の新たな遺伝子を組み込む、あるいは老化した遺伝子を新たなものと交換する。

また、時には染色体の配列を変える等の遺伝子治療で、マウスの寿命を２倍から３倍に延ばすことが出来た実験を、ヒトへの実験に移行させたいとの考え方。

その２　臓器の機能が低下したり、損傷が生じた場合、幹細胞を通じて自らの細胞を利用し必要な臓器を再生させることで、永遠の命に近づくことも可能だとしている。

この例として、札幌医科大学で心臓疾患の患者に万能細胞治療を施し成功している（道新）。

その３　すべての生物の細胞にはミトコンドリアが含まれていて、吸収した酸素を生きるためのエネルギーに変える働きをしている。

しかしこの過程で、ＤＮＡやその他の細胞内の要素を破壊する死をもたらす要素をも生み出すという、生命にとっては極めて矛盾した動きをしている。

このミトコンドリアが生み出す有害な酸化物によって、破壊された細胞を修復する機能をもつ遺伝子レスペラトロールの存在が現にわかっており、人工的に増殖させることも可能になっており、赤ワイン用のブドウや落花生の種皮にも含まれていることが確認されている。

このレスペラトロールを魚の細胞に組み込ませた結果59%寿命が延びたと言われ、人間に当てはめれば１９４歳まで寿命が延びたに等しいとのことである。

その４　体内に極小のロボットを入れたり、頭蓋骨にマイクロチップを埋め込んだりして、人間の心と機械を合体させて、神経細胞のシグナルを外部コンピューターに伝達し、機能不全に陥ったり、異常を発した細胞を修復治療する。

ここまで進化すると死を克服し永遠の命を獲得したことになるか。

その５　長寿者が多い所、例えば南米の奥深い高原地域の水は、カルシゥムを含むアルカリ性の硬水である。

いろいろの調査結果から、このような硬度の高い水を飲料水にしている地域では、心臓血管障害による死亡人数が少なく長生きしていることが判明している。

血液中のカルシゥムが不足すると、最優先で副甲状腺ホルモンの働きで、歯と骨からカルシゥムが血液中に溶出されて必要な一定量のカルシゥムが補給されるのですが、何かの拍子で、これが旨くいかなく、必要以上にカルシゥムが血液中に溶出して、血管壁に付着することで血管の弾力性が無くなり、動脈硬化を起こしその結果心筋梗塞や脳卒中を起こしやすくなる。

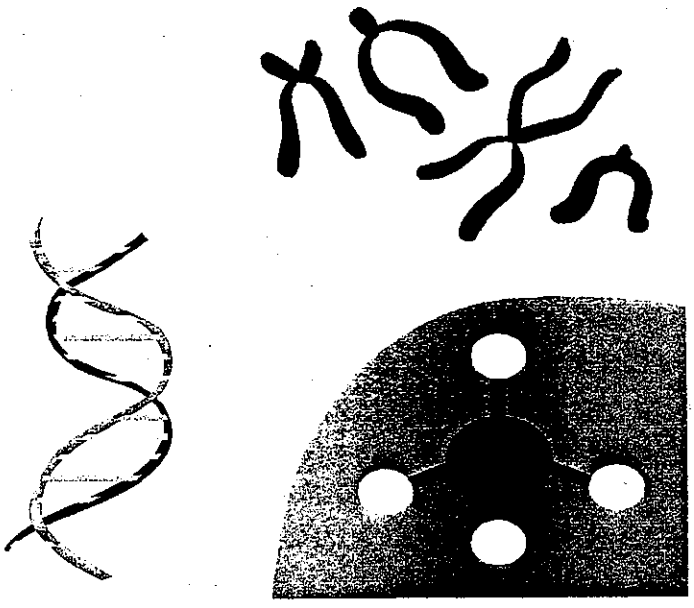
カルシゥムを多く含んだ水を絶えず飲料水にしているとこのような危険が少なくなる。

予防としては硬度 300 くらいのミネラルウオーターも有効とか。

その 6　我が家では、沢止まりの谷地の伏流水を土管で集めて飲料水にしているが、ぬかるみの谷地に木炭・珪石・ホタテ貝殻を敷き、その上に腐葉土を載せている。

水道水よりはっきり旨いと思っている。

輪廻転生・円環の始まりをヒトの死と思っている小生にとって前記したような生物化学の力によって、人間が自然の流れを変えようとすることは、天に唾する行為としか思えないと言う考え方に同意する。



屋久島を訪ねて

法師人春輝

昨年１０月２６日、妻と屋久島へ行く機会を得ました。あこがれの屋久島です。体調がかんばしくなくトレッキングも心配でしたが、行く事に決めました。鹿児島からJAC３７４７便、双発プロペラ機で約３０分の空の旅。エンジンの一定音が実に爽快に聞こえてきます。ほどなく左手に、日高山脈の地形にも似たゴツゴツした連山が見えます。どれが宮之浦岳でしょうか、機内から見える黒い山々は樹齢数千年の屋久杉が生育している、思っただけでも感動。

着陸です。乗客のほとんどは観光客。我々も早速荷物を宿に置きレンタカーを手配。まずはこの原生林を手軽に見学できる屋久杉ランドと言う所に行きました。途中、ヤクザルが道路でまどろんでいたり、ヤクシカが道端に頻繁に出て来ますが、ヤクザルもヤクシカのどちらもあまり人馴れはしていない模様で、適度な距離感が保たれているように感じられました。ヤクシカはエゾシカの半分位の大きさですが、天敵もなくこのまま増えていくと、ここの生態系はどうなってしまうのか気懸かりです。さて、屋久杉ランドは空港から車で約１時間、標高１，０００ｍの所にあり、４つのコースがあって何れも木道が整備されており、誰もがヤクスギを間近に見られるところ。午後４時迄が入山条件で、管理人が午後５時まで常駐しています。ランドに到着です。時計は今、午後４時４０分、この時期、屋久島の日没は午後６時頃、遅いので３０分コースだけでもと思い、タイムリミットをとうに過ぎていましたが、管理人にお願いしたところ、ご自由にどうぞといとも簡単に許可してくれ早々と山を降りて行ってしまいました。

深い森に我々二人だけ。なんか心細くなってきた。その位、重たいです。この森は!!薄暗く怖ろしいまでの静寂、「うっそうとした森」の一言では片付けられない。何だろうこの神秘性と威圧感。既成概念がそうさせるのか、いやそうでもない。この森に住まう「もののけ」か「精霊」かなんだか判らないが、何かが宿っている。それが人間の侵入を拒んででもいるのか、『人間達よ、昼は来るのは自由。しかし夜は、我々の世界』とでも言っている様に思わずにはいられませんでした。同じ世界遺産に選ばれた知床幌別の森が陽だとすれば、ここはまさしく陰。時間は既に午後５時近くになって、深山は夜の眠りに着こうとしていました。誰もいない、風も無ければ何の音も聞こえない。隣の妻は寡黙、お互いが心細くなってきている事を感じとっています。私もこのコースから早く出ようかと思ったくらいです。

だけど、とにかく屋久島を肌で感じたい一心、足を前へと進めて行きます。島の樹齢千年以上の杉は個体がほとんど確認されており、すべてに名前が付いているそうです。３０分コースでも「千年杉」「双子杉」「くぐり杉」などヤクスギに会うことが出来ます。さてさて、数１００ｍ位行き「くぐり杉」を向こうに見、闇の不安が二人の

頂点に達し、その二股部分をくぐろうとした将にその時、静寂の中から人声らしきものが・・・・・・・　な、な～んと人間です。はるか前方を年輩者のツアーご一行様２～３０人が行軍の如く歩いているのです。夕闇迫る森の中を!!　あっそうか、ここは屋久島だ。昨年観光客は３０万人以上訪れたとも聞いていました。そう言えば駐車場に１台だけバスが停まっていたっけ。

我々の不安は一掃され妻はハイテンションに。ランドの短時間コースを早々と切り上げ、車窓から見られるという「紀元杉」へと、車を更に山奥の淀川入り口方面へ進めるのでした。「紀元杉」（推定樹齢三千年と言われています）に着いた頃には暗くなりました。

１ヶ月に３５日雨が降ると言われる位、雨の多い屋久島、
山を降りる頃には霧が出て、宿に着いたのは午後６時４０分。着くや否や物凄い大雨、やっぱり降りました。でも途中当たらず、明日も降らなければOK。後は寝るだけですから。

今日は、高曇り、すがすがしい朝です。宮之浦から車で３０分、標高６００m地点の白谷雲水峡へ向かいます。水平分布でいうと屋久杉ランドが島の南側、白谷雲水峡は北東に位置しています。花崗岩の岩肌を削って流れる渓流、苔に覆われた緑のじゅうたん、照葉樹林とヤクスギの混合林が見応えです。

サキシマフヨウの柔らかな花が目立つ県道を走り詰めると、いくらか広い駐車場が、もう車でびっしりです。管理棟で協力金一人３００円を納め、弥生杉コースを歩きます。約１０分で「飛流おとし」の滝。細く縦長に割れた岩の間を勢い強く流れ落ちている。とにかくどこをとっても水量が多い。土壌層はとても薄いそうで、木々達は花崗岩に根を喰い込ませて生き延びている。年間降水量１万ｍ１超の雨とヤクシマコケを始め数多くの苔達、数多くの台風の直撃、きわめて厳しい自然の中で凛としてそびえる屋久杉達。やっぱり感動ものです。

「二代大杉」迄更に進むと江戸時代、島津藩に献上したと言われる屋久杉。試し切りとして倒木され、切り株になっていたり、そのまま放置され「土埋木」と称され、苔むして転がっているのが目に付きます。「二代大杉」はその切り株更新の一つで、

二代目は約３００年の樹齢。その杉にはナナカマドやツリバナなど８～１０種の植物が着生しているのが見て取れました。

ヒメシャラの木にほほを付け、ひんやりとした感覚を味わいながら「弥生杉」（推定樹齢３０００年）に別れを告げ、雨に当たらなかった２日間に感謝し、森を後にしました。

この次は体を鍛えて荒川登山口から「縄文杉」をへて宮之浦岳登頂を果たしたいと思っています。皆が訪れたい島屋久島。しかし、人が入ると自然が荒廃する矛盾。「縄文杉」は根の周囲に柵が張り巡らされしのいでいる。それでも心無い者が中に入り、根を踏み荒らしていると・・・。地元の人は何時まで持つか心配だと言っていました。

地元有志が今、屋久杉の保護に真剣に取り組んでいる姿も垣間見ました。マナーが悪いといずれ屋久杉を見たくとも見られない日も近いような気がします。景気が更に悪化し、環境保全がなおざりにならないか心配です。

今年も皆さん方にとって良い年であります様ご祈念して終わります。

＜忘年会＞のお知らせ

＊ 日時 平成21年12月5日（土） 17時30分

＊ 場所 北の菜路季「大地」

札幌市北区北７条西１丁目　NSS ビル１３１

（地下鉄東豊線「さっぽろ駅」１６番出口）

＊ 会費　３、０００円

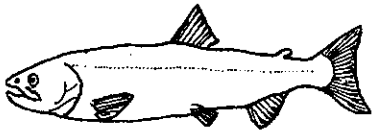
＊ 申込　１２月１日まで三崎宛連絡を

札幌市北区太平１０条７丁目５―８

Ｔｅｌ，FAX　０１１－７７２－０５６３

森と川と海

苫小牧市　谷口勇五郎



サ　ケ

２月末、サンガーデン(苫小牧)で森づくりのフォーラムがありました。基調講演は「森が育む豊かな流域の生態系」の題で某教授が行いました。この文は講演を聴いて考えたり、私なりに理解したものです。

まず、魚付林の役割として、水面に陰を落とし、魚の休み場をつくり、降雨を貯え水量や水質を安定にしている。落葉や落枝などの有機物や栄養塩（ナトリウム・カリウム・カルシウムなどのイオン）を川や海に供給している。落葉はガガンボ・ヨコエビ・トビケラなどに食べられ、さらに魚などに食べられる。トビケラ・カゲロウなどの羽化により、まわりの小鳥に食べられる。一方、落葉がばらばらにされた細粒有機物はプランクトンの生育を促す。落葉は河口域にも至り、ヨコエビなどに食べられ、それはカレイに食べられる。水辺林から供給される落葉・落枝や流出した栄養塩などをもとに、藻類・プランクトン・昆虫類・甲殻類（エビ・カニなど）・魚・小鳥などの生態系(生物やその周りの環境をも一まとめにしたもの)をつくりながら、川は流れ海に入って行く。

一方、サケは海の栄養で体を作り、育った川に遡上して産卵し、死ぬ。遺骸は川辺でカビが付いたり、ハエのウジに、キツネやタヌキに食べられたり、大型の鳥が内陸に運び食べ、それらのフンなどが、植物の栄養になっていることが、同位元素を分析して（海由来の窒素）みると、ヤナギやフキに含まれていることが解かるそうです。

日本国土の３分の２は森林で、その４割はスギ・ヒノキ・カラマツなどの人工林とのこと。木材輸入の自由化や過疎化などで、放置された林は、混み過ぎて陽が入らず、ひょろひょろした木で下草が生えず、地面は保水力が低く、大雨・台風などで土砂崩れが起きやすくなっている。某ボランティア会（本州）は間伐などで流域の人工林の整備を進めたいと発足（04 年)。山主とも一緒に学び合いながら、森林をきれいにしようと呼びかけているという。単に労働の無償提供でなく、地域と交流を深め、地域の活性化、人工林の整備を願い、その後、山主は自ら山仕事に励むことや森林組合への仕事を頼むことを勧めているそうです。

川は単に水が流れ海に入っていくだけでなく、生物を通して周囲との物質のやり取り、上流と下流とのつながり、流域はまさに運命共同体とのことです。

ボラレン育成研のぞいてみてある記

札幌市　吉田　政徳

まもなく秋色が人目をひく季節を迎えます。散策路の両側に秋を演出する花々が、せいいっぱいの魅力を漂わせています。秋といえば「読書の秋」が思い浮かびますが、いまは「研修の秋」にふさわしい季節です。８月末、「ふれあい交流館」でボランティアレンジャー育成研修会が行われました。その模様を取材しましたのでリポートします。

≪ 一日目 ≫

❑ 開講式　主催者挨拶

ふれあい交流館館長　氏家さんの挨拶、つづいてボラレン会長　田村さんの挨拶があってこの研修会が始まりました。松井さん（交流館職員）から３日間の日程についてのオリエンテーションがありました。

❑ 野外実習（アウトドアゲーム）――アイスブレーキングのためのアウトドアゲームです。

１参加者の協力心が問われるゲーム

①サークルベットに参加者（２４名）全員、すき間なく立って並びます。（図１）

②リーダーの合図で誕生月日の順に並びます。右回りか左回りかは参加者が決めます。

③やくそくは声を出さないこと。

④身振り、手振り、口形、表情で意思を伝えます。手の掌に指で文字をなぞってもよい。せまいベットの上でする意思疎通は難しく移動は思うままになりません。およそ１５分で誕生月日の早い順から右回りに並びました。

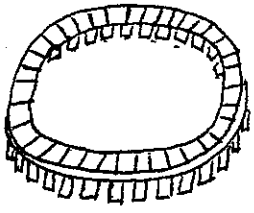


図１

⑤リーダーの点検です。ありました！８月生まれの中に日が順不同になっていたのです。これもご愛嬌の一コマといえるでしょう。ここでは音声会話がなくとも熱意と協力があれば意思を伝えることができるということがわかりました。

２、場所を替える

①並び順は前回のゲームと同じです。協力心を一層強めるために中心に寄りながら円を小さくします。

②前の人を膝の上に乗せるようにして、中腰のポーズをとります。そのとき両手を合図で横に伸ばします（図２）

図２

③「ハイ、ポーズ」で、合図一発きれいに決まりました。一人のフラツキも

ありません。これまでのゲームでこのように成功したのは初めてだそうです。

3、俳句作り

・一枚の紙に一本のペンをわたされ、紙を三つに折ります（図３）
見事な作品の出来映えでした。その中から三作を載せてみます。

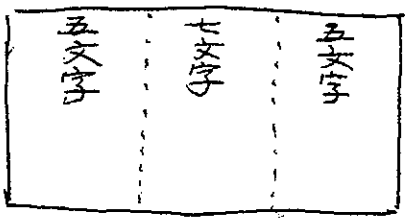


図３

- ごの雨は　可憐に咲かす　黄花かな
- ツユクサは　夏雨にぬれて　秋を待つ
- ゴミがある　誰が捨てたの　森の中　（珍しい作品）

❑ 講義

テーマ　「葉っぱにまつわる話」研修部長小林さんの講義

私たちがよく目にする植物体の部分は葉っぱです。葉の基本的知識や葉の不思議さ、巧みなつくりを興味深く話され、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

≪二日目≫

❑ 野外実習＜観察会＞

担当者の案内で、コースに沿って観察会を行いボラレン活動の一端に触れることができました。

担当者はA班は成田さん、春日さん　B班は室野さん、吉田　C班は熊野さん、牧さん　D班は小林さん、三崎さん　E班は今村さん、田村さん。

❑ 講義

テーマ「プログラム作成と解説方法」　副会長五十嵐さんの講義です。

プログラムの作成、解説方法、留意点など話され、五十嵐さんのソフトな音色が参加者の耳に心地よく響いていました。

❑ 講演

テーマ「森林公園の生き物と保全」　自然ウオッチングセンター代表　島田明英さん

・ガイドをするとき、初めにゲームを取り入れること
・なぜ自然ガイドをするのか　・なぜ保全が必要か
・それでは、何を保全するのか、・生物の多様性を何から守るか、
・そのための法的規制をする役所はどこか

説明は分かりやすく、保全の大切さが分かったという参加者の声を聞くことができました。

❑ 実習

＜模擬解説＞　担当は会員の次の方々です。

宮本さん：オオスズメバチ　室野さん：シダ植物　五十嵐さん：野鳥
伊藤さん：紅葉　吉田：コケ植物
模擬解説は本年度で２回目です。ふれあい交流館の南側の木道のある散策路を使い、定められた位置で、テーマについて１０分間で解説をするのです。授業で９０分の講義するよりも難しい。分かりやすく、しかも興味をもって聞いてもらうための工夫が求められます。５人それぞれの持ち味のある解説を聞いてもらいました。

❑ グループワーク
グループ素案としてテーマを決めます。テーマにもとづき必要な素材を集めたり、翌日の発表に備えて、それを補完する図や絵や模型を考えます。いよいよ、素案としてテーマを練り上げて、まとまりのある本テーマを作ります。発表の役割分担も決めなければなりません。
担当者は、A班は宮本さん、佐藤（清）さん　B班は中西さん、吉田
C班は牧さん、熊野さん　D班は小林さん、伊藤さん　E班は春日さん、成田さん

❑ 野外実習　〔サンセット　ウオッチング〕
時間の体験を実感したときの感想です。１、暗闇の中で絵を描く。２、ひとりぼっちで感じたこと。愛知から離れた野幌で、真琴さんがんばっているんだな！
今回愛知から参加されたお一人の伊藤朋子さんです。フローレンスともこの芸名で演劇活動をしています。活動を通して環境保全を訴え全国をまわっています。真琴さんは交流館の職員の濱本さんのことです。以前、伊藤さんが親子で知床旅行をしたときの縁で知り合ったとか。
日常の多忙さの中では暗闇の体験はほとんどありません。日が昇ると活動を始め、日が沈むと住まいに入る。照明のない遠い昔。私たちの祖先がもっていた豊かな感性が現代人に失われているのではないでしょうか。

≪三日目≫

❑ 実習<プログラムの作成>
前日に続くグループワークでプログラムの作成で、12時までです。

❑ 発表<フイルド発表>
午前に作成したプログラムの発表です。各グループの持ち時間は10分間です。研修の成果が濃縮されたクライマックスの時間です。

○C班の発表
テーマ「身近なササを知ろう」
①クイズ形式を入れる。②箱の中から取り出し「九枚笹です」
評：クイズ形式を取り入れて、動機づけをし、五感で実体験をすること

ができたことがよかった。

○E班の発表

テーマ「タネの旅立ち」

①風に吹かれて旅立つ種子　②食べられて旅発つ種子　③くっついて旅立つ種子　④はじけて飛び立つ種子

評：「笑い」を取り入れ、場をなごませていたのがよかった。メンバー同士がサポートしながら進めていたのもよかった。

○B班の発表

テーマ「タネのヒッチハイク」

「皆さん、こんにちは」元気な声で始まる。

①この公園のよさを話し、②観察にあたっての約束、ハチなどに注意－演技を入れ　③黄色い花をルーペで見せて

評：初めの誘導がよく、時間内にまとめられた。メンバー内のサポートがあり、全体の流れがよかった。

○D班の発表

テーマ「遠くに行きたい」

目をつぶって深呼吸をさせる。森のイメージをもたせる。

①白いタオルについた果実を見せる。②布をめがけて果実をあてる。③ひっつき方の６つの型　など。

ここで一句を作る。「ひっついた　あなたと共に　遠くまで」

評：テーマ以外の情報を取り入れるなど工夫が見られた。俳句をつくり雰囲気をなごませていたことがよかった。

○A班の発表

テーマ「オオウバユリの不思議な一生」

①「これは何でしょう」まずオオウバユリの種子をみせる。②発芽から開花までの期間、その利用、種子のしくみ。

評：対話形式を取り入れ、一方通行にならない方法を工夫していたことがよかった。

散策路に沿って並ぶミズヒキの群落。研修の成果を祝すかのように、紅白の模様が風にゆれていました。

❑　まとめ、講義

講師　事務局長の春日さん。

ボラレン活動にあたっての講義がありました。いい案内人になるため「いい顔、いい声、いい動き」、「うなずきと問いかけ」のある観察会を――　。わかりやすい語り口とピンポイントを効果的に活用した奥深い話しに、参加者の皆さんは疲れを見せず聞いていました。

❑ 閉講式

ふれあい交流館の副館長の山田さんから、参加者一人ひとりに修了証書が手渡されました。ねぎらいの言葉を受け、感慨深い面持ちです。共に学び共に力を合わせた３日間・さまざまな思いが脳裡をよこぎっていることでしょう。

研修で育まれた強い絆。別れを惜しむ光景があちこちにみられます。

魅力的なセールストークが聞こえてきました。総務部長の三崎さんのボラレン入会のお誘いです。おかげさまにて、多くの人が入会の手続きをとっていただきました。それぞれの地で「いい案内人」としてのご活躍を祈ります。外はすでに秋の夕暮れに包まれようとしています。

帰りの道すがら、ふと次の一文をお思い出しました。

難しいことは易しく
易しいことは深く
深いことは愉快に　　（鮫島惇一郎　「草樹との出会い」）

21年度　新 会 員

＊今年度、育成研修会で新会員になられた人たち

滝村大輔（札幌市）	吉野聖（札幌市）	池田政明（札幌市）
村上尚美（札幌市）	道場優（札幌市）	志比川薫（札幌市）
磯部光宏（札幌市）	酒井なおみ（札幌市）	飯田玲奈（江別市）
千葉到　（江別市）	森拓通（倶知安町）	小川彰太（釧路市）
戸苅辰弥（名古屋市）	伊藤朋子（名古屋市）	

＊私たちの会に加入していただきありがとうございました。
今後、皆さんと協力して会を一層発展させていきたい。

平成21年度　第2回役員会

平成21年8月10日（月）　18:30～　札幌エルプラザ

出席：田村・佐藤・春日・三崎・小林・伊藤・今村・内山・熊野・田中・中林・高松

欠席：橋場・菅・五十嵐・室野

Ⅰ、開会

Ⅱ、会長挨拶

Ⅲ、報告事項

1，総務部

2，研修部

・05/10（日）　春のありがとう観察会

・05/23-24（土・日）　アポイ岳研修　12名

・05/31（日）　三角山登山観察会　一般5名　ボラレン4名

・06/07（日）　森の新緑観察会　一般64名　ボラレン１０名

・06/14（日）　北広島レクの森観察会　一般7名　ボラレン7名

・07/05（日）　初夏の森観察会　一般20名　ボラレン10名

・07/12（日）　芸術の森周辺観察会　一般7名　ボラレン12名

・08/06（木）　夏の森の観察会

・08/22-23(土・日)　富良野研修会　変更して実施

22日　13時　新富良野プリンスホテル集合　風のガーデン見学

宿泊：原始が原山小屋

23日　原始が原　勝竜の滝往復

会費：4000円（夕食ジンギスカン・朝食仕出し弁当・昼食おにぎり・行動食持参のこと）　広報部

3・機関誌「エゾマツ」第89号　6月24日発行

4，事務局

（1）05/17（日）セイヨウオオマルハナバチを駆除しようについて

・講師：北海道開拓記念館資料情報課長・学芸員　堀　繁久氏

・参加者22名

（2）07/26（日）　オオハンゴンソウ防除

①連絡先

・江別市廃棄物対策課　五十嵐氏　℡383-4217　根を入れた袋の回収

・自然環境課野幌公園分室　立花氏　℡898-0455　車の通行許可証　貸出

道有林の管理（中央線の西側）

・石狩森林管理所　石狩地域森林環境保全ふれあいセンター　荻原氏・志鎌氏

℡533-6741　国有林の管理（中央線の東側）

②PR活動　・ボラレン活動チラシ（区民センターなど）、北海道ウオッチングガイド・TGAL・道新・まんまる新聞

③参加者数　市民11＋ボラレン19＋石狩センター4＋交流館2＝36名

（3）希少生物調査について

・参加人数（参加登録者　19名）

	ボラレン	ふれあいセンター
4月23日（木）	１５	3
5月02日（土）	１４	2
5月09日（土）	１３	2
5月20日（水）	１１	3
6月06日（土）	１２	2
6月20日（土）	１０	2
計	７５	１４

・結果は、口頭による報告

（4）ボランティア・レンジャー育成研修会準備

・06/07（日）　自然ふれあい交流館との打ち合わせ

・07/29（水）　育成研修会担当者打合会　18:30～　エルプラザ

Ⅳ、議事

1，総務部

2，研修部

（1）　下半期観察会・研修会の当番について

（2）　オホーツク支部秋季研修会への対応について

（3）　鵡川研修会対応について

●１０月３日　・ウトナイ湖ビジターセンター集合　１３:００

・ウトナイ湖研修　１３：００～１４：３０

・ウトナイ湖発　１４：３０

・鵡川研修　１５：３０～１７：００

●１０月４日　・１１:３０分まで研修　現地解散

（4）　アポイ岳研修の反省

・来年度実施するか

・来年度の時期と内容

3，広報部　機関誌「エゾマツ」90号　10月21日発行

4，事務局

（1）　ボランティア・レンジャー育成研修会について（別紙）

（2）　セイヨウオオマルハナバチを駆除しようについて

・研修会を今後も行うか

・市民を巻き込んだ研修会とするか

・実施時期はいつにするか

（3）　オオハンゴンソウ防除について

・認定申請書の期間は、23年3月31日まで

・来年度も実施することでいいか

・今年度の反省点

（4）　忘年会について　12月4日（金）　１８：３０～

（5）　次回予定　1月21日

Ⅴ、次回予定・連絡事項

Ⅵ、閉会

平成21年度　観察会・研修会予定

月	実施月日	行事名	下見	集合・解散場所		備考	テーマ	当番
4	23日(木) 10:00～12:30	春の花を見つけよう	16日(木)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	早春の花・野鳥観察	春日・熊野
5	10日(日) 10:00～14:30	春のありがとう観察会	9日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食・ゴミ袋・軍手持	ゴミ拾い、春の花観察	小林・高松
	17日(日) 10:00～12:00	セイヨウオオマルハナバチを駆除しよう	担当者下見16日(土)	交流館集合・解散	主催 研修	昼食持参		室野・牧
	23～24(土・日)	アポイ岳研修			主催・研修	宿泊研修		春日・小林
	31日(日) 10:00～14:00	三角山登山観察会	30日(土)	緑花会館登山口集合・解散	主催	昼食持参		菅・三崎
6	7日(日) 10:00～12:30	森の新緑観察会	6日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	初夏の草花	室野 五十嵐
	14日(日) 10:00～12:30	北広島レクの森観察会	13日(土)	レクの森入口集合・解散	主催			佐藤・村上
7	5日(日) 10:00～12:30	初夏の森観察会	4日(土)	交流館集合・解散	主催			春日・室野
	12日(日) 10:00～12:00	芸術の森周辺観察会	11日(土)	芸術の森停留所前集合	主催・研修			今村・熊野
	26日(日) 10:00～14:00	オオハンゴンソウ防除	25日(土)	交流館集合・解散	主催・	昼食持参・協力(自然ふれあい交		五十嵐 佐藤
8	6日(木) 10:15～12:30	夏の森の観察会	7/30(木)	村集合・瑞穂の池解散(時計回り)	共催	昼食持参自由	夏の花観察、瑞穂の池	菅・田村
	22～23(土・日)	富良野東大演習林観察会			主催 研修			小林・宮田
	28～30(金～日)	ボランティア・レンジャー育成研修会						
9	6日(日) 10:00～12:00	恵庭公園観察会	5日(土)	恵庭公園駐車場集合・解散	主催			小林・橋場
	12～13(土・日)	オホーツク支部秋季研修会			オホーツク支部主催			
	13日(日) 10:00～14:30	秋の花でにぎわう森を歩こう	12日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参	秋の花観察	内山・田村
10	3/4(土・日)	鵡川研修会			主催 研修			
	15日(木) 10:15～14:30	秋の森の匂いをかごう	8日(木)	村発着・交流館昼休憩	共催	昼食持参	紅葉・木の実観察	熊野・伊藤
11	3日(火) 10:00～14:30	晩秋の森観察会志文別コー	2日(月)	交流館集合・解散	主催	昼食持参		佐藤・今村
	8日(日) 10:00～12:30	秋のありがとう観察会	7日(土)	交流館集合・解散	共催	ゴミ袋、軍手持参・昼食持参自由	ゴミ拾い、木の実・草の実観察	小林・春日
	23日(月) 10:00～12:30	西岡水源地自然観察会	22日(日)	管理事務所前集合・解散	主催			熊野・中林
1	17日(日) 10:00～12:30	円山登山観察会	16日(土)	円山登山口集合・解散	主催			菅・三崎
2	14日(日) 10:00～12:30	冬の森の観察会	13日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	野鳥・雪上物観察・交流食事会	内山・春日
	21日(日) 10:00～14:30	藻岩山登山観察会	20日(土)	慈恵会登山口集合・解散	主催	昼食持参		三崎・田村
3	21日(日) 10:00～12:30	森の中で春をさがそう	20日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	芽吹き・野鳥観察・交流食事会	室野・春日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

自然観察会のご案内

平成21年11月～22年2月の観察会の日程です。自然の営みの素晴らしさを感じる楽しい観察会にしたいと思います。どうぞ、お集まりください。

晩秋の森観察会　志文別コース

日時：11月3日（火・文化の日）
10:00～14:30（昼食持参）
集合場所：野幌森林公園大沢口）
自然ふれあい交流館

大沢口からエゾユズリハコース・四季美コース・志文別線を歩いて登満別口の森林の家を目指します。落ち葉をサクサクと踏みしめて歩きます。紅葉が美しいコースです。昼食は、「森林の家」でとります。

円山登山観察会

日時：1月17日（日）
10:00～12:30
集合場所：円山登山口

円山は年中通して登山者でにぎわいます。頂上からは札幌の街が眼下に美しく広がる様子が見られます。野鳥も必ず見られます。登山道が踏み固まっていますから、滑り止めがあった方がいいです。

西岡水源地自然観察会

日時：11月23日（月・勤労感謝の日）
10:00～12:30
集合場所：西岡公園管理事務所前

この時期、愛くるしいエゾリスの出迎えを受けるでしょう。管理事務所の脇のイチイの実を食べに来るのです。広葉樹は、すっかり落葉。初冬のたたずまいです。森の中は見通しがよくなっています。野鳥の観察が楽しみです。落ち葉を踏みしめて歩きます。天候によっては降雪もあるかも。

藻岩山登山観察会

日時：2月21日（日）
10:00～14:30（昼食持参）
集合場所：慈啓会登山口

藻岩山には年中、登山者があります。冬山ですから寒さに備えた服装でおいでください。昼食は、山頂の休憩室でとります。頂上からの景色や雪をまとった木々の姿は、冬の観察会ならではの美しさです

※事前の申し込みは必要ありません。
※参加費は、保険料として100円を徴収させていただきます。

※問い合わせ先：北海道ボランティア・レンジャー協議会事務局　春日順雄　電話　881－4090

編 集 後 記

・表紙は熊野さんがスケッチした屹立する「ニセイカウシュツペ」です。

・真ん中の写真「コオノトリ」は鶴川の門村徳男が撮影したとても貴重な写真です。９月２０日ー２３日に飛来して来て、１００メートル近くで撮影したそうです。

・今年初めてオオハンゴウソウの防除を行いました。市民の参加もあって３２名で約９０００本を抜き取りました。この帰化植物は根を張っていてなかなかうまく抜けず、小さな根の残ったのもありました。その様子は春日事務局長、会員の安倍さんのレポートを参照ください。

・８月末の「ボランテイァア育成研修会」、その成果もあって１４名も会員になってくれました。その様子を吉田さんに書いてもらいました。吉田さんは課外実習、コケ植物の「模擬解説」などをされ忙しいスケジュールをこなされました。そのような多忙のなか、精緻なレポートを書いてくれました。申し訳ないと思いながら、スペースの関係もあって吉田さんの了解を得て、広報部の佐藤が短くさせてもらいました。

・今年のオホーツクの研修会（9月１２，１３日）ー 成功裡に。
支部の会員に札幌、富良野のからの参加も含めて１７名で実施。会員のみなさんは地理的に離れていて困難な中での活動、着実な成果をあげています。春日さん、畑中さんの報告を読んでみてください。なお昨年度の機関紙「流氷」（１０号）の論文を転載しています。

・次号は１月下旬の発行予定です。１月 15 日までに広報部、北広島の佐藤まで原稿を送ってください。皆さんの原稿をまっています。

・忘年会に参加する人は日程、場所などを確認して総務部長の三崎さんまで連絡をしてください（本誌別紙　参照）。今年もハガキなどでの案内はありません。

日時　１２月５日（土）　１７：３０分
場所　北の菜路季「大地」　北７条西１丁目　ＮＳＳビル１３１

「エゾマツ」
２００年１０月 21 日発行　秋季号
９０号
会長　　田村　允郁